

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型障害福祉サービス事業所スマイル		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 15日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 15日		～ 令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童と職員で『今日も一日楽しく過ごす』をテーマに児童、職員共に意見を聞き、固定化しないように活動を行っている。	個別支援(身辺自立・学習支援等)や集団活動を行う際異年齢集団(縦の繋がりの大切さを知る機会・他校のお友達との交流関係の広がり)の小グループに分けて活動を行い順番やルール等を子供たちに決めてもらいます。職員はその時の子供の状況に応じその子の個性に合わせた支援を行うようにしている。	勝った時の嬉しさだけでなく、負けた時の悔しさを感じることで原因や解決方法等を一緒に考え声(色々なツールを使って)にする事で自分や相手の思い(コミュニケーション力)を知り次の機会に繋がります。お友達を助けて勝利に導いたりした子供には沢山褒めて本人の喜び肯定感へ広げていきます。
2	季節を感じられるプログラムの提供『集団活動やゲーム、イベント、制作活動、ドライブ等』	四季折々の製作やクッキング、課外活動等での体験を通して楽しみながら五感を刺激し不器用さの軽減につながる療育や社会経験のスキルアップを心掛けている。	平日は集団活動や個別支援プログラム(身辺自立訓練・学習)学校がお休みの日は一日一回戶外活動の機会を設け、体力づくりや地域の子供達との交流を図る。また公共施設へのお出かけでその時その場所でのルールや人との触れ合いの機会を持ち社会性を培えるように努めている。また、季節の食材を使って昼食やおやつ作りを楽しみながら食育に繋がれるようにしている。
3	保護者、関係機関との連携	日々のかかわりを通して子供の変化や様子を送迎時に保護者に伝える様にしています。それを踏まえ家庭や学校での様子を伺いながら対応方法と事業所内での様子や対応方法の情報交換を行い子供たちへ同じ支援方法が出来る様にしている。	日々成長する子供たちの変化を見逃さないよう職員間での連携を図り早期対応へつながるよう保護者、関係機関とのかかわりを強くし同じ支援方法により子供たちがまよわない支援にして行けるよう努めています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職員による支援	保育士免許や教員免許保持者はいますが、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士心理ケアなどの専門としている職員がいない。	職員の確保や、職員の研修を増やして行く。
2	子供たちが高学年になると来所時間が遅くなり十分な時間の確保が難しい。	限られた時間内で利用時一人一人が希望する活動や必要とされる療育をゆっくりと受けにくい事。	早めに来所した子供たちから訓練時間の確保を目指す。個々の意見に耳を傾けスケジュールを組み時間内に消化(納得して)出来る様にする。
3	放課後児童クラブや児童館の子供たちとの交流活動。	学校が休みの時など、色々な公園や施設に行って地域外の子供たちとの交流はしているが、保護者に伝わっていないことがある。	スマイル新聞等でもっともっと保護者へのアピールが大事